



経堂バプテスト教会

教会短信

2014年6月1日

No. 57

牧師 間瀬 善彦

「神は、その独り子をお与えになったほどに、世を愛された。独り子を信じる者が1人も滅びないで、永遠の命を得るためである」(ヨハネによる福音書3:16)

わたしは10代の後半、自分の人生に不安を感じ、生きる意味を見出そうともがき苦しんだことがあります。人生の目的は何か、自分自身の存在意義はあるのか、捜し求めました。そして、20歳の時初めて友人に誘われ、キリスト教会を訪れることによって、イエス・キリストと出会い、生きる喜びを教えられました。わたしのようなちっぽけな存在をも、大切に思い、ありのままのわたしを受け入れてくださるお方に出会いました。また、わたしも神の前に罪ある存在であることを教えられ、そのわたしの罪を神の御子イエス・キリストが身代わりに背負い、十字架について命をささげ贖ってくださったということ、それは神がわたしたち人間にしてくださった最大の犠牲であり、これが本当の愛であることを知りました。

もし、わたしの文章を読んでくださっている方の中に、今生きることに不安を感じておられたり、自分はどんな存在だろうとお悩みの方がおられましたら、教会にいらしてください。世界のベストセラーである聖書の御言葉を一緒に学びましょう。きっとその中で良き答えが見つかることでしょう。次に、イエス・キリストに出会い、人生の意味を見出したある1人の証しをお読みください。



証し

私が生まれ育った家庭はクリスチャンホームではありませんでしたが、尊敬し優しい両親のもとに、二歳年下の妹と共に特に不自由を憶えることなく育てられました。中学ではブラスバンド部、高校では山岳部に入り、勉学共に励みました。努力をするという事が、私の信念であったような気がします。そして、浪人の経験もすることなく、筑波大学へ入学しました。何か克服すべき壁をもとめて、勉学とスポーツに張り切っておりました。私は初心者でしたが、体育系の軟式庭球部に思い切って入部しました。周りのほとんどの部員は、推薦で入学した体育学群の方々ばかりで、中にはインターハイ準優勝の経験を持つような先輩もおりました。

40度を超えるフライパンのようなコートでも、吐く息が凍りつく真冬のナイターコートでも、ひたすら白いボールを追い続けたのが私の青春でした。しかし、テニスの壁は厚く、物理の勉強も思うようにははかどりませんでした。その様な時、眼科での診察の帰り、なんとなく本屋に立ち寄りしました。その時に、三浦綾子さんが書かれた「塩狩峠」という小説をふと手にし、買って帰りました。学生宿舎に帰ってその本を読んでいくうちに、ハンマーで頭を叩かれた様な感動に出会いました。急峻な塩狩峠を暴走し始めた汽車を、クリスチャンである主人公が自らの体を呈して止めたのです。この事故は、主人公の婚約者が待つ駅に向かう途中で起きました。そして、この小説は三浦綾子さんが実話に基づいて書かれたということの後書きの中で知り、クリスチャンってなんだろうという思いが、心の奥から湧き出してきました。三浦綾子さんが執筆された本を、次から次へと読み漁っては感動と共に涙し、イエス様に出会っていったのです。その折、つくば伝道所主催の秋の特別伝道集会のちらしが、学生宿舎のポストに入っておりました。初めて特別伝道集会に出席した後は、児玉先生のご自宅で行なわれておりました主日礼拝にも、毎週出席するようになり、バプテスマの準備を進めておりました。しかし、神様を受け入れ、クリスチャンになることは、神様のロボットになってしまうのではないかと、本当は自分の努力が足りないのではないだろうか、などの不安を感じ、教会から離れてしまいました。そして、また自分の努力に頼った生活に戻り、自分の人生の意味が見えなくなってしまいました。マラソン42.195kmを完走すれば自分の人生にもっと自信が持てるのではないだろうかとはじめて挑戦し、2時間58分で完走したのですが虚しい思いでした。いろいろなアルバイトを経験し、自己改善研修会、カウンセリング勉強会など熱心に参加し、尊敬する先生、友人にも出会うことができましたが、胸の奥にあるぽっかりした大きな穴を埋めることはできませんでした。物が食べられず、20kg近く痩せてしまった時期もあり、私のようなものはこの世が必要としていないと自分を責めてばかりおりました。自殺を考えたこともあり、当時筑波大学では一番高かった、F棟という校舎に登り、いつそのことここから飛び降りたいという衝動に駆られたこともありましたが、両親や妹が悲しむと思うと、目の前の柵を越えることはできませんでした。あの晩は小雨が降っており、その夜景は散りばめたガラスのように綺麗で、今でも鮮明に記憶しております。



その後、国家公務員試験に合格し、旧東京大学原子核研究所に就職したなか、教会へまた行ってみたいと思うようになりました。当時、十条駅の近くに下宿しておりましたが、電話帳で教会を調べたところ、常盤台教会が目につきました。朝から良く晴れた 1986 年 5 月 25 日に、自転車に乗って出かけていきましたところ、偶然にも、いえ今では神様の導きだったと確信しておりますが、荒瀬先生による特別伝道集会の主日礼拝でした。その時の説教に心捕らえられ、私の人生は神様によって与えられた事、放蕩息子がやっと父の元に戻って来た事をしみじみと実感しました。教会員の方々からの祈りに支えられ、その年の 8 月 17 日に戸上先生からバプテスマを受けました。筑波伝道所の児玉先生も大変喜んで下さったことを戸上先生からお聞きし、数日後には、児玉先生からお便りを頂きました。そのお便りの中には、「バプテスマは受けてみると矢張り不思議なめぐみのある事がわかってくるものだと思います。」という言葉が書かれてありました。本当にその通りだと思います。全く罪のない神様の御子イエス様が、手足に釘を打たれ、十字架におかかりになりました。そして、その血潮と息も絶え絶えの苦しみの中から、この私のどうすることもできない罪を許して下さい、そこまで私を愛して下さい、ということ信じます。そのイエス様の愛によって、私の人生に本当の意味が与えられました。クリスチャンになったからといって、急に大金持ちになったとか、全く病気にもかからなくなった、といったこの世的“御利益”はありませんでしたが、しかし私にとって本当に必要とするものは、必ず祈りに答えられ、与えられました。特に、1990年に天城山荘で開かれた全国青年大会で、私の妻に出会い結婚することができたことは、神様からの最高の祝福でした。私にはもったいない素晴らしい天使のような妻です。現在、20歳の息子と18歳の娘は、神様から頂きました最高の宝です。また、大学生のときは虚しかった物理学の研究も、私の人生が神様から頂いたことが解った後は、本当の意味を見つけることができ、現在でも理化学研究所で研究を続けております。

イエス様はこの私の救い主です。これからは、牧師夫妻はじめ、経堂教会の皆さまと共に、イエス様から御言葉を頂き、祈り、信仰生活を守らせて頂けたら幸いです。

聖書を学ぶ会

- 牧師から詳しく聖書を学びます。
- 讃美歌も歌い楽しい会です。

毎週火曜日 午後1時30分～2時30分

祈祷会

- 静かな夕べに聖書を学びます。
- 共に祈り合います。

毎週水曜日 午後7時30分～8時30分

教会学校（幼児科）

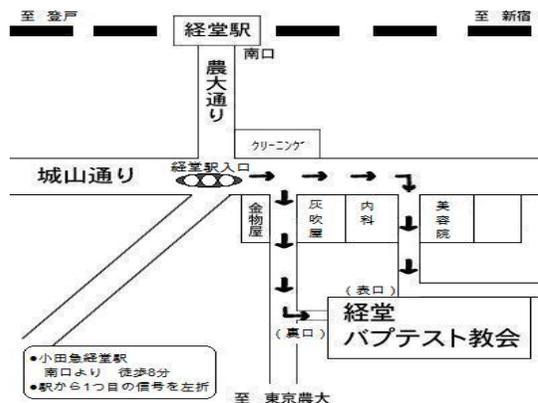
- かわいい讃美歌を歌って、聖書のやさしいお話を聞きます。お祈りもします。

毎週日曜日 午前10時～10時20分

教会学校（成人科）

- 礼拝の中で、牧師のお話を聞いて、感想や意見を述べ合います。わからないところは質問もできます。

毎週日曜日 礼拝後



経堂バプテスト教会

牧師 間瀬 善彦

〒156-0053 世田谷区桜1-64-30

TEL 03-3427-2352

※当教会はプロテスタント教会です。エホバの証人、モルモン教、統一協会などとは異なります。